

Ver 1.00

グランドマスター アセトニトリル

[illegible]

前 フ リ

[illegible]

現在では十分な純度をもつ塩素酸カリウム（劇物）、硝酸銀（劇薬）、クロルピクリン（劇物）、ブロムアセトン（劇物）、濃硫酸（劇物）、石炭酸（劇物・劇薬）などはまず入手不可能なので、本稿はあまり役に立たない（←何のだ？）かもしれないが、まあ文化遺産ってコトでどうかひとつどうかふたつどうかみつどうかよつつ……。

テキスト化に当たり、原文に忠実に入力するよう努めたが、そのままでは読みにくくなってしまったため、弊社の判断で改行を挿入してある。それ以外の改変は一切行っていないし、漢字が変換できなかった場所以外には無粋な注釈も入れていないのでそーゆーことです、ハイ。

□ □

新しいビタミン療法 No.2

一九五二年 春

火炎瓶の作り方

1 材料

- a ガラス空きビン
(ビールビン、サイダービン、インキビン、薬ビン等なんでもよい)
- b 砂糖 (ふつうの家庭でつかっているもの)
- c 塩素酸カリ (工業薬品、どこの薬局でもうっている)
- d 濃硫酸
(工業薬品、比重一・八四。薬局にある。メッキ屋、自動車修理工場等にもある)
- e 燃料 (自動車用ガソリン又は石油、ベンジン)

2 製法

a 発火剤

塩素酸カリ一〇グラムに砂糖六・八グラムの割で乳鉢等にいれ、羽毛等でしずかにまぜ、これを錠剤器で一ヶ〇・五グラムの錠剤にする。錠剤器がない場合はうすい紙で小さく包んでもよい。これと濃硫酸が接触すればはげしく発火する。

b 装置

- (1) まず使う目的に応じて適當の大きさのビンを選ぶ。建物などに投げつけてたやすくわれることが必要である。
このビンに底が一面に浸るていどに少量の濃硫酸を入れ、その上に燃性ガソリンを入れる (この量も使用目的により適當に加減する)。
- (2) 栓の真中を錠剤が入る程度にくりぬき底をローで密封し、その中へ先の錠剤又は発火剤に紙包みを入れ、その上に木又はコルク中栓をはめておく。この栓を硫酸とガソリンをいれたビンにはめておけばどこでも使用できる。

3 使用法

使用のときは中栓を押すと栓の底のローが破れて発火剤が下に落ちる。これがガソリンの中を落下して底の濃硫酸にふれると発火反応が始まる。パリパリ音がしてガソリンが変色して来る。但しこのままでは発火しない。この反応が始まったのを確認したのち、目的物になげつける。ビンが割れ、ガソリンが散布され、発火剤と濃硫酸が空気にふれると猛然ともえる。

4 問題

これは最も簡単で大衆的につくられる火焰（編注：原版の「焰」の字は旧漢字らしい）ビンであるが、これだけでどのていどの物（建物、貨物、施設、車両等）が引火するかは研究しなければならない。たとえばガソリンだけがもえて目的物がそのまま残るようなことはないか等まだ多くの問題がある。これをもとにさらに研究し成果をあげて下さい。

「B」インキの作り方

1 処方

第一液	┌クエン酸鉄アンモン	一グラム
	└酒石酸	二グラム
	└水	五〇グラム

第二液	┌ニカワ	一グラム
	└水	二五 cc

第三液	┌硝酸銀	二グラム
	└水	二五 cc

2 製法

まず水五〇cc中にクエン酸鉄アンモン（褐色薄片状で褐色塩ともいい青写真によく用いられる）一グラムをいれよくかきまぜてとかす。次にこの中へ酒石酸（白色結晶）二グラムを加え同様によくかきまぜて完全にとかすと褐色をおびた第一液がえられる。もしよくとけないときは温めてもよい。別の容器になるべくこまかく砕いたニカワーグラムを入れ温湯二五ccを加え加熱する。ときどき木の棒等にてかきまぜ完全にとかす。このかすかに褐色をおびた温い第二液を第一液中に少しずつ注ぎいれよくかきまぜる。又別の容器に硝酸銀（白色板状結晶）二グラムを水二五ccにとかした第三液をつくりおき、先程の混合液の中に加えよくかきまぜて混合すれば黄色のやや濁った液ができる。これを褐色ビンに入れて（褐色ビンのないときは白色ビンに入れて新聞等で包む）暗所に保存し、必要に応じて必要量のみを小出しして使う、これが「ガリタイプ」を応用した「Bインキ」である。

3 製造上の注意

- (1) 第一液中に第二液を注いだとき綿状のものが溶液中にできたならば液をあたためてとかしてしまうこと。
- (2) 第一、第二混合液と第三液は混合せずに別々に貯え使用のときに三対一の割合で混合して使ってもよい。
- (3) 第一、第二混合液に第三液を加えたのちはなるべく日光にあてぬこと。
- (4) 硝酸銀は有毒故とくに取扱いに注意すること。
- (5) 溶解に用いる容器はなるべくガラス製又は陶磁器製品を用い金属製品は使用しない方がよい。又かきまぜるために用いる棒はガラスや木や竹を使う方がよい。

（↑編注：原版の「第」の字はすべて略字らしく、変換できなかった）

4 「Bインキ」の使用方法

普通のスミで書くように新しい筆などで、紙、板等へ書き、乾いてから目的の場所にはればよい（一定時間ののちに日光が直接あたるか又はそれに近い場所であることが必要）。そうすればある時間を経たのちに、日光の作用によって被筆記物上に褐色の像が生じる。

5 使用上の注意

- (1) 「B インキ」で書かれた文字は日光にさらされる前は殆んどその象をみとめず、日光の作用ではじめて褐色像を生ずるのであるから、インキ及び書かれたものは必要以外日光にてらしてはならぬ。新聞紙などにしっかり包んでおくで大抵大丈夫である。
- (2) 日光の光力によっても異なるが紙の質によっても感光速度は異なる。がいして上質紙（例えばレポート用紙、グラフ用紙）は感光速度が早く、わら半紙はおそい。十二月中旬の正午頃、直射日光ならばレポート用紙なら二～三分で発色し、しだいに濃くなり十分もたてば十分読みうるようになる。又同じ晴天の日、直射日光によればワラ半紙だと五分位で僅かに発色し、二〇～三〇分でよめるまでになる。又同じ晴天の日、かげで直射日光が当たらないところにおいたときは二倍以上の時間がかかる。太陽が薄雲を被ったどん天の日には十分よみうるようになるまでレポート用紙で二〇分以上、ワラ半紙で四〇分以上かかる。だから日光の弱いとき、或いはすみやかに発色させるときは上質紙をつかいその反対のときはワラ半紙を用いることが必要である。したがって翌朝発色させたいならば感光速度からいって上質紙の方がよい。
- (3) このインキには滲み防止剤が入っていないから、筆にあまりタツプリとインキをふくませてかくとにじむことがあるから筆記のときに注意すること。

催涙弾、腐蝕弾の作り方

催涙弾には、クロルピクリン（農薬、比較的容易に入手できる）。ブロムアセトン等を用いる。腐蝕弾には、稀硫酸、濃硫酸、石炭酸、塩酸、苛性ソーダ等を用いる。実戦に役立つ弾の作り方については各自研究すること。

□ □

=====

「 新しいビタミン療法 No.2 Ver 1.00 」についての注意事項

=====

記

▼ 壺 ▼

「 新しいビタミン療法 No.2 Ver 1.00 」(以下本稿)は、「内容の改変は一切認めないが再配布は無制限に認める」フリードキュメントとする。したがって、本稿をインターネット、パソコン通信、BBS(営利、非営利を問わず)などへの転載、雑誌・書籍などへの掲載・添付は、内容を改変しない限り、自由に行って良い(ただし、このreadme.htmlも同時に転載・掲載・添付すること)。転載・掲載・添付の報告も不要である。バージョンアップ時の転載先に対するフォローについては、強制はしないがなるべくやってほしい。

と言いたいところだが、引用部分の著作権は原著作者(誰だかわからん)が保持しているので、そのへんは諸君の良識に任せる。くれぐれも間違いの無いように。

▼ 式 ▼

壺における「内容の改変」とは、「削除、追加、入れ替え、改行」などの編集行為をいう。ただし、ダイナミックHTML化やヘルプファイル化、理解を助けるための画像ファイルの添付、読みやすくするための「倍角化」「色付け」、それに伴うファイル名・拡張子の変更は、この「内容の改変」には当たらないとする。

▼ 参 ▼

これは一応文化事業です。いちいち目くじら立てると健康に悪いよ!!

▼ 四 ▼

本稿は汎用性を持たせるため、テキストベースで作成してある。ダイナミックHTML化やヘルプファイル化などの構想はあるものの、目処が立っていないので、技術力のある人はガンガンやっていただいて結構。また、漫画のネタにすることも可とするので(笑)、画力のある方はガンガンやっていただいて結構。もちろん外国語に翻訳することも可とするので語学力のある方はガンガンやっていただいて大いに結構。

と言いたいところだが、引用部分の著作権は原著作者(誰だかわからん)が保持しているので、そのへんは諸君の良識に任せる。くれぐれも間違いの無いように。

▼ 伍 ▼

本稿のコンセプトは、「優れた文化遺産を後世に遺す」である。

▼ 六 ▼

間違っても本稿を参考にしてモロトフカクテルの「実験」をするなどという馬鹿なことはやめましょう。やめてください。やめてくれ。おい、やめろ！

▼ 七 ▼

本稿を使用した結果生じた如何なる損害も保証しない。

以 上

秘密結社 反帝反スタ情報開発

グランドマスター アセトニトリル

=====

新 し い ビ タ ミ ン 療 法 No.2 改 変 履 歴

=====

Ver 1.00 とりあえず形になる

著者・発行者	秘密結社 反帝反スタ情報開発 グランドマスター アセトニトリル
発行所	秘密結社 反帝反スタ情報開発 東京都新宿区西新宿7丁目893番地 メラノーマビルディング69階